

【川口市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

『GIGAスクール端末を効果的に活用した誰一人取り残さない「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現』を目指し、「とにかく使ってみる」から始め、「端末を活用した授業改善」へとステップアップし、令和5年度より「リアルな授業と端末活用の組み合わせ」に取り組んできたところである。

2. GIGAスクール構想第1期（令和2年度～令和5年度）の総括

市立小中学校におけるGIGAスクール端末を活用した好事例

- ・紙媒体のドリルだけではなく、長期休暇中の宿題に個別学習ドリル機能を活用することで、自主学習にも意欲的に取り組むことができている。
- ・共同編集機能を活用し、グループ活動を行う事で、協議する内容に深まりが見られる。
- ・授業でアンケートフォーム機能を活用し、子供たちの意見をモニターに投影することで、他者の考えを共有することができている。

上述のとおり、学習アプリや授業支援ソフト等を活用することにより、学校現場では活用が進んでいる。また、緊急事態宣言下においては、自宅で学校の授業を受けられるオンライン授業を実施する等、効果が実感されつつあるが、以下のような課題も挙がっており、解決の方向性について、検討を進めているところである。

課題	解決の方向性
教員端末のスペック不足	教員端末のスペック（CPU・ストレージ）の再検討を行い、児童生徒の学習端末より高スペックの端末の導入要否を検討する。
校内一斉に利用した場合等にネットワークが不安定な状況が発生する	帯域変更・機器変更等により、ネットワークを増強し、課題解決を図る。
特別教室等、GIGAスクール端末が活用できない場所がある。	必要な場所へのアクセスポイントの設置により、GIGAスクール端末を活用できる場所を増やす。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 利活用の前提

端末の整備・更新を計画的に行うことにより、児童生徒が1人1台の端末を利活用できる環境を維持していく。

(2) 1人1台端末の日常的な利活用

学習ソフトの更なる活用¹⁾

ベネッセコーポレーションが提供するデジタル教育アプリ「ミライシード」を活用して、個別最適な学習の実現や、協働学習支援機能を活用した全員参加による学びを推進していく。

「MEXCBT」の活用¹⁾

文部科学省が提供するオンライン学習システム「MEXCBT」を活用し、学校・家庭における学習や音声・動画を用いた問題演習を進めるほか、自動採点機能を活用して、市教育委員会主催の川口国語チャレンジのテストを作成し、学校におけるデジタル化を支援する。

(3) 1人1台端末を活用した学びの保障

多様な学びの場、居場所を確保²⁾

学びの喜びが感じられるよう、授業配信に加え、学習支援アプリの活用や、授業動画配信サイトの利用等、ICTを活用した学習支援を行う。

(4) その他の場面での活用

自殺防止対策としての活用検討¹⁾

小中学校における児童生徒の自殺防止対策として、GIGAスクール端末を活用した児童生徒の心の不調を早期に発見するアンケート等を試行する。

¹⁾ 2024年度SDGs未来都市等提案書 より抜粋

<https://www.city.kawaguchi.lg.jp/material/files/group/7/SDGsmiraitositeiannsyohHPkoukaiyou.pdf>

²⁾ 『川口市の総合的な不登校対策「川口版 COCOLO プラン」について』 より抜粋

<https://www.city.kawaguchi.lg.jp/material/files/group/150/R0501shiryou4.pdf>